

WEEKLY

例会場
 ロワジールホテル豊橋 TEL.0532-48-3131
 事務局 豊橋市藤沢町141
 ロワジールホテル豊橋本館9階 926号室
 TEL.0532-35-9973 FAX.0532-39-3743
<http://www.toyohashi-golden-rc.gr.jp>
 email golden@toyohashi-golden-rc.gr.jp

RIメッセージ

地区方針

クラブ方針

フランチエスコ・アレツォ会長

鈴木康仁ガバナー

神谷馨会長

UNITE FOR GOOD

ともに学び、ともに地域社会に貢献しよう!

 新たな時代へ 理想の未来への挑戦
 環境変化に対応し、より魅力的なロータリークラブへ

第14回(通算1718回)例会報告		令和7年10月10日(金)	米山記念奨学担当例会
ゲスト	米山奨学生 ホアン ヴァン ナム君		
出席報告	総会員数61名(計算会員数56名) 欠席13名 出席率76.79% 前々回修正出席率85.71%		
歌/会場	勇気100%	会場: ロワジールホテル豊橋 30F「ル・モン」12:30~	

会長の時間



神谷 馨会長

皆さまこんにちは。本日10月10日は目の愛護デーです。目の健康をテーマに話をさせていただきます。目の愛護デーは1931年に「視力保存デー」として制定され、戦後、厚生労働省が「目の愛護デー」と改称し、目の健康を促す活動が全国で行われています。

特に私たちに身近な白内障についてご説明させていただきます。目の大きさは直径24mm ほぼ10円硬貨程の大きさです。目の中にある直径8mmのレンズが透明な状態から少しずつ濁った状態になり視力が見えづらくなった状態が白内障です。手術により95%の確率で快適な視力を得ることが出来ます。大切な事は、自分の視力を遠くの見やすさを優先するか近くの見やすさを優先するか、手術の前にドクターとの話し合いの中で十分に理解することです。毎年新しい高機能レンズも製品化されています。費用が異なる自由診療レンズ等、私共の医療法人メディカルワン井原眼科でも白内障のご相談も受け付けておりますのでご利用頂ければと思います。

本日のプログラムは米山記念奨学担当例会です。米山記念奨学会は、国際奨学団体として年間約950人の奨学生を採用しており、事業規模・採用数ともに日本国内では民間最大です。小笠原米山記念奨学委員長、そして米山記念奨学生ホアン・ヴァン・ナム君よりしくお願い致します。

米山奨学金贈呈

米山奨学生 ホアン ヴァン ナム君



誕生日祝い

お誕生日おめでとうございます!



牧野政雄会員

西郷隆治会員

今川明彦会員



杉田和俊会員

石原聖季会員

牧 岳大会員

入会記念日祝い



鵜殿健次会員

ロータリーの友読みどころ



尾崎雅輝雑誌委員長

まず見開きの横組から。1ページに10月は地域社会の経済発展月間、10月7日を含む1週間はロータリー学友参加推進週間と書いてあります。3ページ、RI会長メッセージとて、「この10月、私はロータ

リーの会員の皆様に、地域社会における経済的リーダーシップについて考えていただきたいと思います。地元で経済活動を主導しているのは誰でしょうか？研修やメンターシップによって伸ばせる、眠れる才能はどこにあるのでしょうか？」など問いを投げかけられています。雑誌のメイン、地域社会の経済発展月間として、5ページに一献を紡いで、酒造りと町造りが紹介され、10ページ以降に全国のロータリアンの蔵元が紹介されています。かなりのロータリアンの方々が酒蔵を経営されていると知りました。皆さんの好きなお酒も載っていると思いますので、ぜひご覧ください。14ページに行くと芋焼酎の楽しみ方で、前割りという芋焼酎を数日前に水につけてくという飲み方があるんですね。僕は初めて知りました。16ページに行きますと、米山親善大使の方が3人紹介されておりまして、招聘できる、講演に来てもらえそうなので、もし担当の方がいたら、ぜひ呼んでいただきたいと思いました。横組は以上でございます。縦組だけ1つだけ紹介させてください。皆さん、崎陽軒のシウマイ好きですか？僕は大好きなんですけれども、野並直文さん、現会長のこの方は初代のお孫さんにあたります。なぜシウマイ弁当がおいしいのかが書かれてあります。豚肉だと冷めてしまうとまずいということで、干しホタテの貝柱が入って冷めてもおいしくなっているということです。また4ページに行きますと、なんで小さいのか？の理由や、当初は全然売れなかったことから販売促進の方法を考えて、3ページのシウマイ娘を採用。身長が高くないとできない、158センチ以上という条件。この売り方で大人気になり、シウマイもいらない人まで買っちゃうと言ったほど売れたのです。6ページにまとめが書いてあるんですが、地域ブランドを目指すのか、世界に出るのかの問いに、野並氏は地域のブランド、ローカルブランドを選んでいったということが書かれてありました。この話は私たちゴールデンロータリークラブのブランディングにおいて活かせる話ではないでしょうか。

人生の岐路『あの時違う人生を歩んでいたら…』



二橋佳奈会員

本日は、皆様の前でお話させていただき機会をいただきまして、ありがとうございます。まだまだ人生の先輩方の前でお話するには、身の丈が足りないと思いますが、今日は「私の人生の岐路」についてお話し

たいと思います。

幼少期から何事にも好奇心旺盛で、良い言い方だと、「挑戦者」であった私です。4歳くらいの時に、当時のアニメ「パーマン」が流行っていて、パーマンセットを買ってもらい、ヘルメットとマントをつけて、走り回り、父親の顔面に激突し、当時40代だった父は前歯を失いました。小学生の時は、初めてサーカスを見て、「サーカス団員になりたい」と思い、サーカス団のように鉄棒の上を一輪車で走ろうと…案の定、落ちました。

そんな私にいつも母は、「もう…全く、佳奈は何を考えているのかわからない」と私に言いますが、最後には「いい勉強をしたね」と言ってくれていました。

こんな私も大学生になり、初めての一人暮らしをすることになりました。体育学部は講義よりも部活。先輩の言うことは神様よりも優先で。毎晩毎晩飲み明かし、気づいた時には財布の中は10円。困った私は「バイトをしよう」と。選んだバイト先は「知的障害者更生施設」。選定理由は、当時の最低賃金は677円。にも関わらず850円の時給。「これしかない」と知的障害の意味も何もわからず「時間給がいいから」ただそれだけで決め、バイト面接へ行き、無事に合格し、大学3年間、「みずほ学園」という施設にお世話になりました。

アルバイト初日、駐車場の場所がわからず、玄関にいた人に「駐車場の場所が…」と話かけたら「とんがりコーン」と言われ、苦笑い。その日の給食のメニューは「唐揚げ」。食事中に急にトイレへ走り込むAさんを追いかけた挙句、「唐揚げ」を食べられたり…。穴を掘ることが好きなBさんと一緒になってどろんこ遊びをしていたら、管理者の人に叱られたりと充実したアルバイト生活を送らせていただきました。

特に興味を持ったのは、しげさんという当時30歳の方。いつもズボンにポロシャツをインして、ポロシャツのボタンは上まできっちり閉める。作業中は空を仰いで眺めていたり、扉を通る時はピョンと片足をあげる。リモコンが定位置にないと、その定位置に必ず戻す。毎週日曜日にコンビニへお菓子を買いに行くのですが、この日、コンビニは模様替えをしたようで、お菓子の場所とパンの場所が入れ替わっていました。元の位置に直そうとするしげさんを職員の方と一緒に止めるが、諦めきれない。強引に車に乗せた時のしげさんの顔、そして、乱れたポロシャツをちゃんとズボンにインをする姿を今でも忘れることは出来ません。

ここから私の障がい者支援に関わる人生が始まります。この出会いがなかったら、きっと私は障害者とは無縁の人生を歩んでいたと思います。そして、今後私に襲い掛かる悲劇に対して、母から「勉強するには高すぎたね」と言われることはなかったでしょう。でも、あの時、「時給がいいから」という選定は、間違いではなかった。と過去の自分を褒めたいと思います。それは、今私は充実した毎日を送っているから。

ご清聴ありがとうございました。

米山記念奨学担当例会



小笠原英彦米山記念奨学委員長
皆様こんにちは。米山記念奨学委員長の小笠原です。

本日は、米山記念奨学委員会の担当例会であります。本クラブの米山奨学生のホアンヴァンナム君に卓話をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。その前に私から『米山記念奨学会』について簡単に説明をさせていただきます。

米山記念奨学事業は、ロータリーの「奉仕の理想」と「国際理解・親善・平和の推進」という理念を、最もわかりやすい形で体现している事業のひとつです。この事業は、1952年、今から70年以上前に始まりました。当時の日本は、戦後の復興期にあり、まだ国際社会とのつながりが十分ではありませんでした。そうした中で、「日本に



学びに来る海外の若者を支援し、将来、相互理解と友好の架け橋になってもらいたい」という願いのもと、ロータリアンたちが力を合わせて設立したのが、この米山記念奨学事業です。その名称は、当時の東京ロータリークラブ会員であり、初代の大口寄付者でもあった 米山梅吉氏 にちなんでいます。米山氏は「教育こそが世界平和の礎である」との信念を持ち、留学生支援の必要性を強く訴えられました。その志が、今日まで脈々と受け継がれています。米山記念奨学事業の目的は、海外から日本に学びに来た優秀な留学生を支援し、将来、国際理解と平和に貢献できる人材を育てることにあります。この奨学金は、返済の必要がない「給付型奨学金」です。全国のロータリアンの寄付によって運営されており、政府や企業による制度とは異なり、民間の自発的な奉仕の精神によって支えられている点が大きな特徴です。また、この事業の大きな魅力は「人との交流」にあります。ロータリーの会員が「カウンセラー」として奨学生と1対1で関わり、生活面や学業面の相談に乗るだけでなく、例会や行事に招いて交流を深めます。当クラブでは杉田会員がカウンセラーとしてご尽力いただいております。こうした人間的なつながりこそが、米山記念奨学事業の真髄であると言えます。これまでに、世界およそ 130 の国と地域から約 2 万 5 千人近くの留学生が米山奨学生として学びました。支援の規模は、民間の奨学事業としては日本最大、そして世界的にもまれに見る大きなネットワークを誇ります。

卒業後、奨学生の多くは母国や第三国で、研究者、外交官、教育者、企業経営者など、さまざまな分野で活躍しています。彼らの多くが日本とのつながりを大切にし、自国で「日本の理解者」「日本の友人」として活動をしていることは、私たちロータリアンにとって大きな誇りです。米山奨学生たちは、帰国後も「米山学友会 (Yoneyama Alumni Association)」を通じて交流を続けています。世界各地で学友会が組織されており、日本と現地との懸け橋として、さまざまな国際交流活動を行っています。その中には、ロータリークラブに入会し、自らが奉仕活動に携わるようになった卒業生も少なくありません。

このような「良き連鎖」が、米山記念奨学事業の真の価値を物語っています。

今日、世界は国際紛争、気候変動、経済格差など、さまざまな課題に直面しています。そうした中で、国境を越えて理解し合い、協力し合える人材を育てることは、ますます重要になっています。米山記念奨学事業は、まさにそのための基盤を築いています。一人の留学生を支えることが、やがて国と国を結び、平和を築く礎になる。それが、ロータリーが掲げる「超我の奉仕」の精神そのものです。今後も私たちロータリアン一人ひとりが、この事業の意義を理解し、継続的な支援と交流を続けていくことが、未来への投資になると思います。

より詳しい内容については、こちらの【ロータリー米山記念奨学事業豆辞典】を読んでいただければ幸いです。最後になりますが、会員の皆様へ事務局から『米山記念奨学会』への寄付のお手紙が届いていると思います。10月31日が期限となっておりますので是非寄付をお願いいたします。

それでは、ナム君に卓話をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

米山奨学生 ホアン ヴァン ナム君

【Slide 1: 自己紹介】

・発表者: HOANG VAN NAM
(ホアン・ヴァン・ナム) 黄文南

・出身: ベトナム

・豊橋技術科学大学大学院

情報・知能工学専攻 修士1年

・公益財団法人ロータリー米山記念



奨学会 奨学生

・カウンセラー: 杉田さん

皆様、こんにちは！

ただ今ご紹介にあずかりました、ロータリー米山記念奨学生のホアン・ヴァン・ナムと申します。漢字では「黄色い」の黄、「文化」の文と「南」と書きまして、黄文南書きます。

現在、地元の皆様から「技科大（ぎかだい）」の愛称で親しまれている、豊橋技術科学大学の大学院で、情報・知能工学を専攻しております。簡単に申しますと、ITやコンピューター、プログラミングについて日々勉強と研究活動をしております。

本日は、このように皆様の前でお話させていただく貴重な機会をいただき、心から感謝申し上げます。短い時間ではございますが、私の日本での生活と、皆様への感謝の気持ちをお伝えできればと思います。



【Slide 2: 日本（豊橋）に来るまでの流れ】

私が日本という国に興味を持った最初のきっかけは、子供の頃に夢中で見ていた日本のアニメでした。「クレヨンしんちゃん」、「ドラえもん」、そして「名探偵コナン」。画面の向こうの日本の生活や文化に、子供ながらに強い憧れを抱いておりました。

成長するにつれて、日本が世界をリードする科学技術の国であることも知り、「いつか日本で勉強したい」という夢が膨らんでいきました。

その夢への大きな転機が訪れたのは、ベトナムのハノイ工科大学の1年生の時です。幸運にも三菱重工様の奨学金をいただく機会に恵まれ、日本への留学の道が拓かれました。この奨学金のおかげで、2年間の日本語学習と4年間の大学の費用と生活費を支援していただき、安心して勉学に励むことができました。大学入学前は1年半ほど東京で暮らし、その後、この豊橋の技科大に入学いたしました。



[Slide 3: 研究の紹介-生成 AI について]

さて、ここからは少し、私の専門である研究についてお話しさせてください。
現在、大学院では最近話題の「生成 AI」について研究しています。

(パート 1 : 生成 AI とは何か?)

皆様も、「チャット GPT」などの言葉をニュースで耳にされたことがあるかもしれません。生成 AI とは、一言でいえば「新しい文章や画像などをゼロから創り出すことができる AI」のことです。まるで人間と自然に会話しているように、こちらの質問に答えたり、文章を要約したり、物語を作ったりもできます。

(パート 2 : AI の大きな課題 - 「幻覚」)

このように非常に便利な生成 AI ですが、実は大きな課題も抱えています。それが、研究者の間では「幻覚 (ハルシネーション)」と呼ばれている現象です。

これは、AI が事実ではない情報を、まるで本当のことのように、もっともらしく答えてしまう問題です。いわば、AI が「知ったかぶり」をしてしまうのです。

例えば、「豊橋市の名物、ちくわの歴史について教えて」と AI に質問したとします。もし AI が正しい知識を持っていなければ、「ちくわは江戸時代に徳川家康が豊橋を訪れた際に、好んで食べたことから名物になりました」といった、もっともらしい嘘の答えを作ってしまうかもしれません。これが「幻覚」です。

普段の会話であれば笑い話で済むかもしれませんが、これが人々の健康に関わる医薬品のような分野であったらどうでしょうか。「この薬の副作用は？」と聞いた AI が、知ったかぶりで「副作用はありません」と嘘の情報を教えてしまったら、大変危険です。

(パート 3 : 私の研究 - 「正直な AI」を目指して)

そこで私の研究は、この「幻覚」の問題を解決し、「嘘をつかない、正直な AI」を作ることを目指しています。

具体的には、AI が自分の知識にないこと、自信がないことを質問された際には、知ったかぶりで嘘の答えを作るのではなく、人間と同じように

「分かりません」と正直に答えるように訓練する、というアプローチです。

そのために、AI が答えを生成する際の「自信度」を測る仕組みを取り入れたり、AI が情報の出どころを正確に示せるようにしたり、といった技術的な改良に取り組んでいます。目指しているのは、ただ賢いだけでなく、「誠実で、信頼できる AI」です。

(パート 4 : 将来の応用例)

この研究が成功すれば、将来的には、例えば皆様もお使いになるドラッグストアで、薬を探すのを手伝ってくれる AI アシスタントに応用できるかもしれません。

「眠くならない風邪薬はどれですか？」とか、「この痛み止めと飲み合わせが悪い薬はありますか？」といった質問に対して、AI が正確な情報だけを、責任を持って提供する。そして、もし専門的すぎて分からないことがあれば、「その質問は薬剤師の方にご相談ください」と正直に言う。そんな、安全で信頼できるシステムの実現に、私の研究が貢献できればと考えております。



[Slide 4: 学校での野外活動]

研究だけでなく、課外活動にも力を入れています。私は技科大の GAC という、留学生と日本人学生が一緒に生活し、学ぶプログラムに参加しています。

これまでに、新入生の歓迎会やハロウィンパーティーといったイベントを仲間たちと企画しました。特に去年は、ベトナムの「揚げ春巻き」を皆で作りながら、日本語やベトナム語を教え合う国際交流イベントを開き、大成功でした。

そして今年は、ドイツからの交換留学生たちに日本の文化を深く知ってもらうため、皆で伊勢神宮へ行く日帰り旅行を計画しているところです。





[Slide 5: 地元の紹介]

ここで少しだけ、私の故郷ベトナムについて紹介させていただきます。

私は NGHEAN(ゲアン省)の出身です。そこは実家はすぐベトナムの一番高額の紙幣の裏にある背景の近くです。バスで 15 分いかないぐらいです。先ほどお話しした「揚げ春巻き」も、ベトナムではお祝いの時などによく食べる、人気の家庭料理です。もし機会がございましたら、皆様もぜひ一度、召し上がってみてください。



地元の紹介



[Slide 6: 謝辞・感想]

改めまして、ロータリー米山記念奨学会の皆様へ、心より感謝申し上げます。

皆様からの温かいご支援のおかげで、私は経済的な心配をすることなく、今、最も力を入れたい修士の研究に打ち込むことができております。それだけでなく、先ほどお話ししたような、国籍を超えた友人たちとの交流活動を企画し、楽しむ時間と心の余裕が持てるのも、皆様のご支援があってこそです。本当にありがとうございます。将来は、この技科大で、そして日本で学んだ知識と経験を活かして、ベトナムと日本の両国に貢献できる架け橋のような人材になりたいです。

その目標に向かって、皆様への感謝の気持ちを忘れずに、これからも日々精進してまいります。

本日はご清聴いただき、誠にありがとうございました。

★ニコボックス

神谷 馨・高橋哲也：米山記念奨学担当例会です。小笠原委員長とナム君よろしくお願ひ。

小笠原英彦：ナム君、卓話よろしくお願ひ。

山本雅久・井上 穂・

太田和彦・山下 孝・

三浦時子：ナム君、卓話楽しみにしています。

西郷隆治・牧野政雄・

杉田和俊・今川明彦・

牧 岳大・石原聖季：誕生日をお祝ひ頂き。

杉田和俊・今川明彦：還暦 60 歳になりました。

鶴殿健次：入会記念日をお祝ひ頂き。

二橋佳奈：会員スピーチをさせて頂き。

小笠原英彦：米山記念奨学の担当例会をさせて頂き。

山口幹夫：例会参加の支援に感謝します。

札木聖巳ニコボックス委員

★幹事報告

・米山記念奨学会より 2024 年度決算書と事業報告書、米山学友の群像、ガバナー事務所より尾身茂氏講演会のご案内が届いております。

★他クラブの例会変更

■10月21日(火) 宝 飯RC 秋の行楽例会(サシ無)

豊橋北RC クラブフォーラム

■10月27日(月) 豊橋南RC クラブフォーラム

■10月29日(水) 豊 川RC 地区補助金例会のため

豊橋東RC 桜丘学園孫便りIAC活動報告